

旧開智学校校舎

Former Kaichi School

新時代への期待を体現する 擬洋風建築

長野県松本市の旧開智学校校舎は、教育
権令と呼ばれた永山盛輝の命により明治
9(1876)年、地元の大工棟梁、立石清重が建
てた小学校舎。当時まだ情報が少なかった西
洋建築を創意と熱意で再現した擬洋風建築
の代表作である。国指定重要文化財。



旧開智学校校舎は西洋建築の再現を目指して大工棟梁が建てた擬洋風建築。旧城下町にあったため多くの士族や商家の子ども達がここで学んだ。



敷地右手の正門から見て玄関が中央にあるように見えるため、玄関を建物右寄りに設置したとする説がある。



立石は東京・横浜見学の際にしたためた『東京出府記』に擬洋風建築のスケッチを5枚残している。



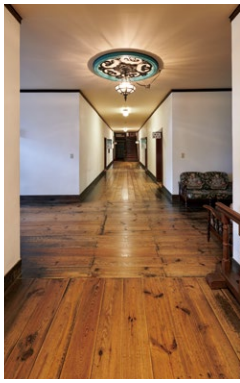
①塔屋欄干下の壁や唐破風の支柱は煉瓦造りに見えるがペンキで描いたもの(煉瓦塗り)。②隅石も石ではなく漆喰。



校名を刻んだ天使の看板は、『絵入り東京日日新聞』の題字デザインを参考にしたとされる。



近隣の浄林寺のものを転用した車寄せの龍の彫刻。寺院の装飾彫刻で知られる立川流、原田蒼溪の作。



西洋に倣った中廊下。現代では採光に配慮した片廊下式が主流。



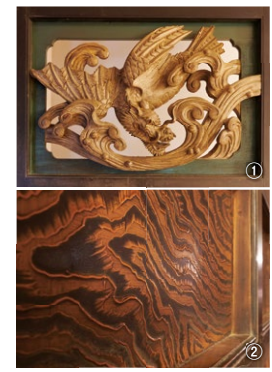
板張り床の教室で洋式の机や椅子(当初は2〜3人掛け)を使って読本や算数を学んだ。窓や扉はシンプルなペンキ塗り。



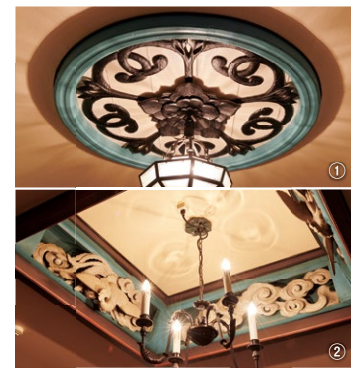
2階講堂。多くの来賓が見守るなか試験もここで実施された。色ガラス付きの窓は、バルコニーの出入り口が使用を想定していない。



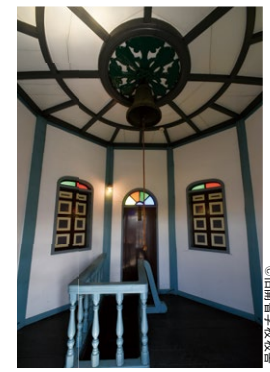
①講堂へ入るドアは花柄をあしらった洋風のデザイン。②彫刻のある和風の棧唐戸を開けると教室が並ぶ。



棧唐戸の意匠。①浄林寺にあった飛龍の彫刻。②ペンキで木目を再現。



来賓などが通る場所では洋風の照明飾りが目を引く。①1階廊下。②2階講堂。

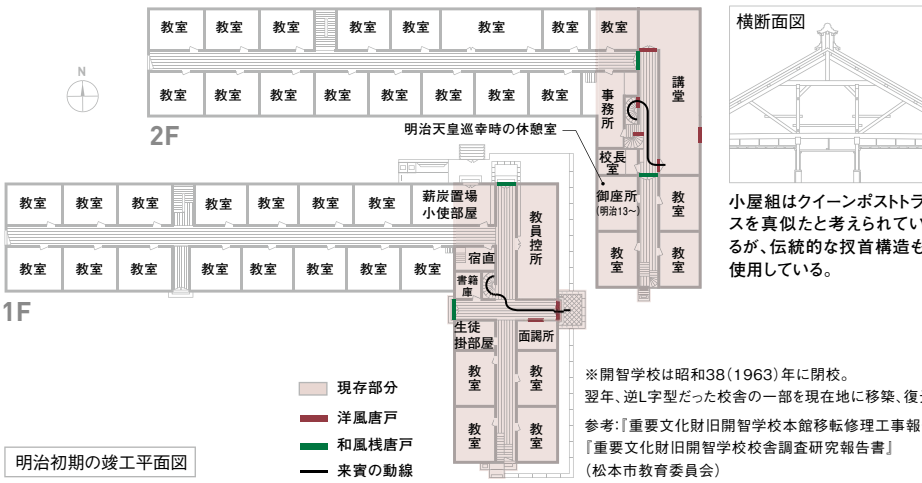


塔屋内部。中央に吊るした鐘を鳴らし、授業開始を伝えた。

明治6(1873)年、開智学校は廃仏毀釈で廃止された寺を仮校舎にして開校。明治9年に児童約1,300人を収容する擬洋風の校舎を新築した。建築を請け負った立石清重は松本城の修繕も手がけた大工棟梁である。新校舎は木造2階建、棧瓦葺の大壁造だが、正面に龍や瑞雲、天使の彫刻で装飾した車寄せ・バルコニーを配し、屋根中央には色ガラス窓の八角塔屋を建てるなど、和洋が混在する構成。バルコニーは実際には使えない構造であり、本来は石積み隅石も漆喰で表現しているように、情報の少ない中、伝統技術と工夫に

よって洋風の見た目の再現に取り組んでいる。当時、特に地方では西洋建築を学ぶ機会が少なかったため、立石は着工前に2度、東京や横浜へ洋館見学に出向いた。そして、開成学校の車寄せや第一国立銀行の塔屋の造りを旧開智学校校舎に生かしたとされる。彫刻や唐破風、塔屋で建物を派手に飾ったのも第一国立銀行の装飾手法を参考にした可能性があると最近の研究で指摘されている。洋風の玄関は教師や来賓用であり、校舎内でもそれらの人々の目に触れる講堂などには洋風デザインを多用している。一方、中廊下の

左右に教室が並ぶ児童のための空間には和風の扉を開けて入るしつらえで、2空間の使い分け・違いを意識したと考えられている。立石は伝統的な技術を駆使しつつ、新しく考えたデザインや転用したデザイン、和風の意匠を独創的に組み合わせて校舎を完成させた。後に西洋建築が広まると擬洋風建築の学校の多くは廃止されたが、旧開智学校校舎は明治30年代にはすでに保存すべき建物として教師達に認識されていたという。小学校としての90年間に加え、現在も教育資料館として活用されており、その点でも貴重である。



用語説明
【教育権令】権令は現在の県知事にあたる。永山は学事推進に非常に熱心だった。
【廃仏毀釈】明治政府の神道国教化政策に基づいて起こった仏教の排斥運動。
【開成学校】明治元年設立。東京医学校とともに東京大学の母体となった。
【第一国立銀行】清水喜助が明治5年に建てた擬洋風建築。
協力:旧開智学校校舎
〒390-0876 長野県松本市開智2丁目4番12号
Shiodome Museum | ROUAI GALLERY
パナソニック 汐留ミュージアム
「子どものための建築と空間展」でも紹介されています。
2019年1月12日(土)〜3月24日(日)
東京都港区東新橋1-5-1
くらしは文化
バックナンバー